

杵築市行財政改革市民説明会Q&A集 山香会場分

Q1：投資的経費しか削減出来ていないがどう考えているのか？

A1：投資的経費について、これまで中学校、図書館、給食センターなど大規模事業が多くありました。今後令和6年度までの計画に大規模事業は無く、通常の長寿命化のような道路の改良等が主になってきます。担当課と相談する中で、大規模事業を除けば、投資的経費は16億円から17億円が通常の規模となります。

市としては、まず、人件費削減と公債費抑制に取り組んでいます。

人件費の削減については、令和6年度末までに人数を300人以下にするように取り組んでいます。今年度は採用せず退職不補充とし、人件費を削減しています。

公債費抑制については、地方債の残高が今年末で257億円あり、県下では、標準財政規模の1.9倍とか1.8倍という中、杵築市は標準財政規模の2.5倍となっており、公債費が高いため抑制します。今後人件費削減、あるいは繰上償還しながら公債費を200億円以下にし、なるべく市民サービスは維持していきたいと考えています。

Q2：職員数の基準はあるのか？

人員を減らすと残業代が増えていくのでは？

A2：定数条例があり、職員定数は決まっています。今現在でも定数以下です。

一定程度の基準のなかで定数を決めているが、合併直後と比較して人件費率がここ数年上がってきているため職員数の減に至りました。とは言いましても、現職を切っていくというのは難しいため、採用抑制と言う形で職員数を減らすという計画を現在立てています。うまくバランスを取りながら一定程度の人件費の規模をキープしながらやっていき、令和6年度までに300人以下の298人にしていきます。令和6年度以降は同レベルで人件費の推移をさせていきたいと考えています。

また、残業代の増加についてご心配いただいておりますが、現在、国の方では、ICTとかDX、リモートワークによる業務の推進を行う方針が示されました。そのためリモートという言葉がたびたび耳にすることが多くなりました。市役所では、市民の皆様にお会いして仕事をするというのが基本ですのでリモートなど難しい部分もありますが、管理部門では試験的にリモートを取り入れようとしている段階です。たとえば定例的な住民票の発行や税証明の発行など人の裁量がいらぬ部分につきましては、ICT化すべきではないかと言う動きになっております。そういう部分で職員を減らせていける

のではないかと考えています。

しかしながら、ICT化するにも投資が必要ですので、今後国の方針をよく見極めていき、取り残されないように勉強していかなければならないと考えています。

Q3：どうやってイベントの集約化や適正化を図るのか？

A3：イベントについては、行政が行うイベントなのか、開催の趣旨や目的に沿ったもので運営されて効果が現れているのか。財政的人的負担が適正なのか、民間の活力を有効活用しているのかなどの視点から存続、縮小、統合、委託、移管、撤退、廃止といった形で見直していこうと考えております。事業につきましては基金を取り崩してまでは出来ないと考えておまして、事業費については全体的に、3割くらいは削減出来ないかということを担当課と話ながら検討しているところでございます。

Q4：新たな財源確保について具体的な例を教えてください

A4：新たな財源の確保はなかなか難しいですが、ふるさと納税以外では、市有施設の遊休施設をうまく貸付、売買出来ないかと考えています。今後そういった公共施設をどう扱うのかっていうのが一番問題になってきますのでそこに重点を置きたい。広告の掲載やネーミングライツなどなかなか難しいため、まずはできることから検討しながら進めていきたいと考えております。

Q5：今後、改善策については市民にどのように周知していくのか？

A5：市民の皆様への周知方法としては、一つは本説明会、そして市公式Webサイトや広報への掲載をしていきます。また、本日の資料につきましては、すべて市役所のホームページに載せてあります。またホームページの環境のない方につきましては各庁舎に印刷物で全て準備をしておりますので、もし必要であれば区民の方からのお問い合わせを頂ければそのようにお伝えを頂ければと思います。さらに、ケーブルテレビで撮影もしておりますので、全部の説明会が終わりましたら、編集をしてケーブルテレビでも説明会の模様を流していきます。

Q6：コロナ禍での山香病院の現状はどうなっているのか？

A6：山香病院について管理者以下スタッフの方々が非常に努力されています。それから山香を中心に市民のみなさん方がよく利用していただいていることで入院の稼働率も全国の自治体病院のこの規模の中でトップグループにいます。

人口がどんどん減少しているなか、黒字経営が出来るのかと言うことでその取組について参議院の厚生労働委員会のメンバーが視察に来るなど、全国的にも非常に注目されており、厚生労働省の中でも山香病院の取組は注目をされています。

コロナの状況ですけれども、やはり通院とか入院患者とか若干は下がってはいますが、効率的なやり方で黒字を出せる病床再編にいち早く取り組み、仕組みを作りました。厚生労働省それから山香病院のスタッフそしてどんな人材が必要なのか、その確保もしています。山香病院については、管理者や職員、それから市民の皆様を支えられて安定的に経営しています。

それからコロナの関係ですが、山香病院では国費を有効に活用しながらPCR検査体制や陰圧室を設けました。市議会の非常に積極的な支援のおかげでコロナの中で冷凍したワクチンを持ってくることになる基礎的基本病院に山香病院が大分県下16病院に選ばれました。今までやってきた、患者さんを受け入れる体制もきっちり出来ているという事です。

山香病院はコロナの対策が進んでおり、客観的に見て非常にいい病院だという評価を既に国・県からしていただいていますので、このままアクセルをもっと踏めるように頑張っていきます。それから山香病院の念願であった医局から派遣されるドクターではなく、内科の医師が山香病院に就職したいということで中核となる医師が来ていただけるようになりましたので山香にとってはありがたいことだと思います。山香病院はこれからコロナ対策やワクチンの接種について議会と情報共有ながら適切な時期に市民の皆様方が安心していただけるように管理者と意見交換してきましたのでご安心していただきたい。

Q7：コロナ禍で風の郷の現状はどうなっているのか？

A7：風の郷は山香の人や当時の山香町役場が手作りで作った施設であり心血注いでやってきましたが、いろんなところを改修しなければならない状況です。所有者としての責任を果たすために、コロナで営業できない期間に集中して最小限の改修しているところです。公募では2社応募があり、今後結果が出ます。山香で温泉、宿泊できるという人気の高い施設である風の郷を杵築市の宿泊施設の要となるようにしていきます。安心して宿泊出来るように、もの自体の魅力・地域の魅力・温泉の魅力も高く、顧客満足度も高いので引き継いで5年間指定管理に出したいと思っています。

Q 8 : 4月から週休1日 営業時間を14時～21時にしてほしい

A 8 : 温泉センターの件について、緊急財政対策で大変ご迷惑をおかけしております。令和3年度以降も現行を維持する形で中期財政収支を試算しています。

Q 9 : カット野菜などを納入すれば、山香病院調理場の人数を削減出来るのでは？

A 9 : 食材の納入について議会でも数回質問をいただいています。

食材は地場産ものを扱う考えを示しています。詳しいところは調査をさせていただきます。

Q 10 : もっと市民に寄り添う市長であってほしい

A 10 : できるだけ現場に出て行きたいと考えています。まずは、コロナ対策、行財政改革を市長として、皆様方の不安を解消し、安心につなげていきたい。そして、いろんな場所に出かけていき直接お話を聞く機会を増やしていきたいと思います。

Q 11 : 資料についてわかりにくい、見て分かるようにしてほしい

A 11 : 今後も説明会を行いますので、その際の資料づくりの参考にして行きます。

もっと分かりやすい資料づくりに努めます。

Q 12 : PDCAサイクルでは時間がかかるためもっと早く実行できないか？

A 12 : 早く実行できるように心がけながら、振り返りをして計画の練り直しを行っていきます。

Q 13 : 原因分析について、分析が不十分

A 13 : 大綱を作った際に何が原因なのか1つずつ検証しました。とりわけ、職員数では平成26年度以降、職員が増えた事から減らす形を目標にした。工数管理などにより見える化し、効率化を図ります。

Q 14 : PDCAサイクルでは時間がかかるためもっと早く実行できないか？

A 14 : 市の場合、議会の議決をいただき予算をつけないければ前に進みません。そのため条例を作るなど、手順を踏まなければならないので計画を立て、評価し、予算を反映するためPDCAになっています。

Q 1 5 : 資料についてわかりにくい、見て分かるようにしてほしい

A 1 5 : 日々ご指摘をいただいています。まずは、市民の皆様の協力により赤字にはならないと伝えたいと思います。見せ方については工夫いたします。

Q 1 6 : 昨年の豪雨被害について八坂川の一部土手が崩壊したままである。被害状況と修繕状況は？

A 1 6 : 災害について、市単独でできることは財源が限られており、災害査定により、国の補助金をいただく方向で事業を進めています。なお、昨年の集中豪雨の災害査定は終わったと報告を受けていますので工事発注はこれからです。ご指摘箇所が補助災害であるのか単独災害で対応しなければならないのか担当課に確認します。

Q 1 7 : 杵築藩主御殿跡について 看板も何もないので分からない

A 1 7 : 国の史跡に台山の天守閣の下の御殿跡が史跡となっています。国の方に経過報告中です。予算の関係もあり今後看板をつけていくように協議いたします。

Q 1 8 : 山香病院の存続問題についてどうなったのか？

A 1 8 : 山香病院の在り方検討会では山香の方も多く出席され、いろんな考えが出てきました。その一つに建て替え案がありましたが、建物の躯体はまだ大丈夫であり、電気や配管備品などの更新を行っていく予定です。管理者と月2回ほど話し合いを行っており経営については、V字回復を遂げ、それを継続することが山香病院の第一の仕事です。まずは経営をきちんとする。その後、配管や冷暖房、入院患者や通院者の不満などを解消し、安定的な経営ができるようにやっています。外来が少なくなってきたことが心配な点です。

杵築全体を考え、病院として一番適切に運営ができるように病院の再編成を行いましたので、安定的な収入が確保できます。まずは経営を安定させ人員を確保し、質を高めることに取り組んでまいります。

Q 1 9 : 職員の工数管理について

作業日報を作成した方が良いのでは？

A 1 9 : 実はすでに取り組みをしておりまして、昨年4月から緊急財政対策の一環で毎週個人がどのような仕事をしたか、一週間つけるのを繰り返しています。4月から12月までまとめたものを各課に戻し、結果がどうであった

か検証を行っている。新たな取り組みの中で試行錯誤していますが、職員配置の根拠になってくるので繰り返し行い精度を高めていきます。

Q 2 0 : 職員の給与削減について 一般職員の覚悟が足りない

A 2 0 : 令和2年度は、平均5%の給与カットとなっています。組合とは令和3年度は現況の平均5%のカットを継続することで妥結しています。計画期間は5年間なもので令和4年度カットについては、令和3年度中に交渉を行います。

組合も現状を理解して、協力的にやってくれていますので、年度毎の交渉で決めていきたいと考えています。

Q 2 1 : 市外からお金が落ちるような企画を立ててほしい

A 2 1 : 昨年、経常収支比率が100%を超え、大変な状況からなんとか抜け出そうと昨年より職員全員で検討してまいりました、市民の皆様にはご迷惑をおかけしました。まずは財政状況を健全化にすることで一生懸命でした。

Q 2 2 : 開催を知らなかった。説明会の告知方法はどうしていたのか？

A 2 2 : 開催案内は1月15日の区長便でお知らせし、その後2月1日に改めて回しました。その後、説明会資料をアップしたのが2月5日です。
区長便を利用して開催通知を行いました。広報の仕方については、ご指摘のとおり市報にも載せるべきでした。反省点として次回以降改善していきます。

Q 2 3 : 令和2年度以前の徴収率が知りたい

A 2 3 : 令和元年度の徴収率は現年度分が98.6% 滞納繰越分15.5%で全体93.6%です。

平成30年度現年度分が98.7% 滞納繰越分19.9%で全体92.9%です。

平成29年度現年度分が98.6% 滞納繰越分16.9%で全体91.1%です。

過去3年とも、これまで県平均の97%にはまだ追いついていない状況です。

令和元年度全体の課税額は33億3,300万円程度で、徴収率93.6%ですので、31億1,900万円の収納ということになります。

Q 2 4 : 滞納額は回収不能など位置づけているのか？

A 2 4 : 現在、差し押さえたままの債権が残っています。

令和元年度の滞納繰越分の調定額が2億円となっており、3, 100万円入っており15.5%です。

年度途中でまだ集計が出ていませんが現時点での数字です。

ほかにも、未収金対策をやっていこうと庁内にも債権管理委員会を今年度立ち上げました。

令和元年度未収金が1億5, 500万円あり債権額を圧縮するという目標を立てることも検討しています。

Q 2 5 : 災害対策費について詳細に教えてほしい

A 2 5 : 今年度は災害があり予算を約10億円組ませていただき、それに対する地方債も借りています。

前の年はあまり災害が無く、年によって変動するのでなかなか、算出しづらいため、変動を含めない部分で7億5千万円の予算を組立てました。通常、災害時の道路補修やがけ崩れ箇所の整備などに使われるものですが、そのような事業に上限を決めてやっていこうとしています。そこで事業をコントロールし、地方債の総額を下げるようになりました。

Q 2 6 : なぜ早く繰上償還しなかったのか？

A 2 6 : 繰上償還をする判断もいろいろなパターンを考えました。結果、5年間の中期財政収支を見ながら財政部会で考えた結果です。

最終的に、繰上償還となりました。

Q 2 7 : 行財政改革推進本部は現存しているのか、審議はされているのか？

A 2 7 : 行財政改革推進委員会は第1次の行財政改革大綱の時からあります。当時からプランを作っていますので合併当時は大綱を作るのに2週間に一回程度意見を聞くため開催しました。

大綱の素案を行政改革審議会に諮問し、意見をいただいています。今回プランについても行政改革審議会には意見をいただき、答申を受けました。

Q 2 8 : 職員の市外居住について、採用時杵築市居住と記載したらどうか？市内居住者に手当をつけるなどしたらどうか？

A 2 8 : 採用時の市内居住はお願いしていますが、明確に文言にできないため、粘り強くお願いしていきます。